

令和3年度ニセコ町予算の編成にあたっての町長方針

令和3年度は、将来に向けて持続するニセコ町発展のための基盤整備を強化する。

- 「環境モデル都市」「SDGs 未来都市」「地域循環共生圏」の推進
- 「子育て支援の強化・拡充」
⇒「子供にやさしいまちづくり」の推進、子育てしやすい環境の整備
- 「ニセコ高校振興対策」ニセコ高校寮の整備計画樹立、抜本的な改革検討
- 「高齢化社会への対応」⇒ 特別養護老人ホームの将来方針確立
- 「住宅不足緩和」への対策強化 ⇒ SDGs 街区の整備促進
- 「水道供給、飲用水確保等」の生活基盤と環境保全との調和強化
- 「水資源、緑地、林地等の保全」用地の確保、持続循環型林地整備推進
- ※ 記念事業
- 「開町120年記念事業の展開」先人のご労苦に感謝し、ニセコ町を未来に繋げる記念の年とする。
- 「まちづくり基本条例施行20周年記念年」これまでの歩みを検証し、未来に引き継ぐことができるようシンポジウムを開催する。

1 『環境創造都市ニセコ』の実現に向けて《ニセコ町総合計画》

- 1) 資源と経済が循環するニセコ
- 2) 人の力が発揮され笑顔が広がる「心温かなニセコ」
- 3) 町民のみなさまとともに、みんなで築く「元気なニセコ」

2 まちづくりのための10の目標

- ① 農業所得向上対策の実践による夢のある農業
- ② 農業と商工観光が連携し、自律した循環型経済の地域
- ③ 水環境を守り、地球環境負荷を低減させる「環境モデル都市」
- ④ 教育環境を整備・拡充し、安心して子育てができる教育のまち
- ⑤ これまでの社会を創ってこられた高齢者を大切に作る温かなまち
- ⑥ 医療と福祉の拡充による安心のまち
- ⑦ 消防・救急体制整備による災害に強いまち
- ⑧ お互いを尊重し、頑張る人を応援する人の輪が広がるまち
- ⑨ 地域の産業を育て、雇用と暮らしを守る内発的産業育成のまち
- ⑩ 公正で効率的な自治体運営を実践する地方政府の確立

(注：上記1及び2は、町長の選挙時目標事項)

3 予算規模の大きな事業及び特記事業

※1 開町 120 周年記念事業の実施、まちづくり基本条例施行 20 周年

※2 新型ウイルス感染の予防及び適応社会に向けた取り組みの強化

- 1) 「SDG s 未来都市」「環境モデル都市」「地域循環共生圏」の推進
- 2) 「防災強化」、「自治創生」の推進、「各個別事業継続計画（BCP）」の推進
- 3) 国営緊急農地再編整備事業の推進
- 4) ニセコ高校振興対策、ニセコ高校寮の基本構想策定
- 5) ローカルスマート交通対策(域内交通・広域交通)の推進
- 6) 省エネ、再生可能エネルギーの導入促進
- 7) 「重点道の駅ニセコビュープラザ」整備実施計画及び実施設計の策定
- 8) 町民プールの整備計画の樹立(場所、概算事業費、補助金の選定、継続)
- 9) こども遊び場の創設の多角的な検討（子供にとって遊ぶことは生きること）
- 10) SDGs 街区の整備促進、
- 11) 有島記念公園牧場跡・羊舎の活用方策樹立及び整備着手（継続）
- 12) 道路・橋梁・公営住宅の長寿命化の更新及び実施
- 13) 無電中化の推進に向けた検討強化
- 14) 水道施設の整備促進
- 15) 観光目的税の実施準備、条例制定
- 16) 国際リゾートオフィス、テレワークの拠点の強化
- 17) 自主防災組織の設立、停電対応電源等の整備
- 18) 行政改革、AI の導入及び調査実施
- 19) 文化、芸術、コミュニティ、防災、健康づくり等、町民研修機会の拡充
- 20) 教育委員会が実施する公営塾・未来ラボの拡充、強化
- 21) 国際交流員、地域おこし協力隊、集落支援員の拡充
- 22) 自治会・町内会未設置個所の解消及び自治会加入率の向上
- 23) ごみ減量化の推進、リサイクルへの周知活動の強化
- 24) 防災ラジオの配布率の向上
- 26) 職員の福利厚生充実及び職員研修の強化、副業及び地域活動拡充検討

4 基本的な事項

- ① 「最小の経費で最大の効果を」との「旧来型発想から脱皮」し、住民の福祉向上とニセコ町の活性化のため「最大の効果を最小の経費」で実施するよう発想の転換を。
- ② 時代遅れの「当初予算主義から脱皮」し、必要なことは直ちに予算化着手し、スピード感を持って「まちづくり」や「組織改革」に挑戦を。「課題を先送りしない」こと。

- ③ 「縦割り意識を排除」し、関係課・係との情報共有・連携に勤めること。「たぶん、〇〇だと思う」など推測による議論・結論は最悪。「必ず事実の確認」を行うこと。
- ④ 町の施設整備や備品見積もり等は、自宅（自分のお金）で購入すると同じ視点で、多様な検討を加え、利用者の利便と維持経費等総合的な検討を。
初期投資を安価にすることに拘泥することなく、「ライフサイクルコスト・将来の価値」を考えること。（安ければ良いの安直な発想からの転換）
- ⑤ 良い仕事をするうえで、情報の収集と研修・自己研鑽は、極めて重要である。各課において、職員の資質向上や町のためになす活動については、創意と工夫をしつつ積極的な予算づくりに努力願いたい。地域に飛び出す職員を応援する。「前例主義での予算づくりから脱皮」を。
- ⑥ 『環境モデル都市』『SDGs 未来都市』として、地球環境負荷の低減、持続する循環社会、そして、「人間の尊厳を大切にすること」を基本として予算づくりにあたること。物質循環、②エネルギー循環、③経済循環を基本とする。
- ⑦ 「日本国憲法」「ニセコ町まちづくり基本条例」「ニセコ町総合計画」「ニセコ町総合戦略」をはじめとする各種計画を念頭に予算編成を。
- ⑧ 前年要求予算が叶わなかったことをもって、予算要求をしないことがないこと。
⇒ 真の必要性を検討する。
また、R3年度予算で計上する理由を確認すること。
- ⑨ 地域にある資源を有効に活用すること、地域にある産業、事業所、農業等の内発的産業の支援。また、地域で頑張っている人を応援することに最大限の努力を。
- ⑩ 課長等のリーダーシップのもと、仕事をシェアするなど助け合い、時間外勤務を抑制する。また、職員の健康・福利厚生・休暇の取得等に十分配慮し、元気で明るい職場を創る。相互に助け合い、有給休暇完全消化の職場を目指す。
- ⑪ 前例主義から脱皮し、先進性を持って新たな視点で仕事を整理すること。
・「自ら考え行動する」「当事者意識を持ち、他者の責任に転嫁しない」
「自治体との比較」⇒ 遅れた自治体とニセコ町を比較する意味があるのか。
日本や世界の先進都市と比較する視点が必要
「前年度との比較」⇒ 長期的視点の欠落、複数年予算の検討を視野に考える。
- ⑫ 環境美化に努め、公共トイレは再度確認を。利用者にとってトイレは、使いやすく快適か。子ども、乳幼児、子育てへの配慮はあるか。
- ⑬ 仕事における全ての発想の原点は、主権者である町民の視点と暮らし。
⇒ 公共の3原則＝公益・公正・公開
- ⑭ 国や北海道とは、対等・協力の関係にあることを自覚し、誇りを持って職務に邁進願いたい。

(2020.10.29 Katayama Kenya)